

東京薬科大学新聞

4月30日

THE TOKYO YAKKADAIGAKU SHIMBUN

発行所
東京薬科大学新聞会
会長 沖 和成

4月号 通刊第145号 ©1988 東京薬科大学新聞会

新歓キャンプを 終えて

新歓キャンプを 終えて

第十回新入生歓迎キャンプが新歓実行委員会主催のもとで四月一日から三日までの三日間、北野大学セミナーハウスにて行われた。まず、学内一二講義室に、開張の表情が取れないよう盛りに上りに欠けたようであったが、上級生紹介・班紹介では各班ともに工夫を凝らしていたので、一気に緊張がとけたようだった。開会式後、各班に分かれてからも和やかな雰囲気であった。また、キャンプでの部屋割り、ほぼ新入生と上級生との相部屋で、新入生と上級生との親睦もかなり深まった。新入生同士もすつかり打ち解け合い、キャンプの後も、よく一緒に行動しているところをしばしば見受けられる。

それはキャンプの後の新入生を見てみれば分かる。新入生同士が見事に打ち解け合っており、可能性を多分に持つまでになったと言える。これこそ新歓祭の本分と言える。

各部門新執行へ PART III

体育部門長 古見立彦
井井本

また、昨年まで問題だった食事と入浴の時間もかなり改善され、細かい問題は多あったが、全般的に見ると大成功に終わったと言える。新歓祭の目的は新入生がいかに早く、いかにうまく大学になじむかということであり、そのための第一の目標は友人を作るための手伝いであろう。

早いもので、入学して約二年の歳月がたち、自分たちが諸先輩がたに代わって、様々な役割に就くことになり、今更ながらに、その責任の重さを自分自身で感じ、同時に体育会をよりよきものとするためにガンバリと思っております。

今年度は、まず体育会の原点にもう一度戻ること、現在の様々な状況に則した運営というものをやっけていきたいと思ひます。今年度も、体育会をよろしく願ひします。

新歓キャンプの後の新入生、あつという間に3日間がたつてしまいましたが、最初は不安でしたが、班の友人と仲よくなれて良かったです。3日の間で東薬について膨大な量の知識を得たような気がしますが、一週間は一見に如かず、だなどと思ひました。第1志望の学校ではありましたが、好きになれそうなきがしましたが、これに於いて新しい人間環境を広げるといふことにはさか不安をいだいていたのですが、新歓キャンプの誘いにはさすがにうなづきました。果たして結果はどういうか、期待以上のものがありました。まず、入学式の前に友達が出来たこと、やはりこれは入学してから講義などでかた入学してから減らしてしまふと思ひますが、友達がいふことはそれが、友達がかたなり負担が減るでしょう。次に上下関係が出来たこと、クラブ等に入つても、上級生とほその中でしか知り合ひないから、とても良かったと思ひます。

いよいよ新年度、新入生の諸君、入学おめでとう。大学の高台のこの部屋にも賑やかになり、希望に満ちた新たな顔で吹き乱れている。新入生の諸君には運動や勉強サークルなどいろいろとやってみたいことがあると思う。しかし、大学の四年間というのは長いようでも意外と早く過ぎ去ってしまうようだ。その短い時間を悔いのないようやり過ごすために、自分が何をやりたいのかをしっかりと見つめて物事を実行してほしい。あつても何もかもやろうとする、消化不良を起こして結局何もできなかった、などという非常につまらないことになつてしまふので、自分の能力を把握し、目標をしばつてあせらずにやるのが良いだろう。◆一般に理系学部はとても忙しいと言われるが、本学でも自分の時間を作るのが容易ではない。講義はあらかじめ時間割が組まれているため、自由で、しかも選択科目が少なく、まして実習に関しては終了時間が不定である。◆しかし、その中から自分の貴重な時間を見つけては、積極的に活用するのでも大学生生活の醍醐味であらう。実際、かなりのハードスケジュールではあるが、そんなことにくじけず二度とない本学での大学生活を楽しく有意義に送ってほしい。◆我が新聞会にも多数のニューフェイスがやってくたが、やがて、桜の花が散つてゆくように彼らが去つてしまふのことに切に願う。(渡&沢)

いよいよ新年度、新入生の諸君、入学おめでとう。大学の高台のこの部屋にも賑やかになり、希望に満ちた新たな顔で吹き乱れている。新入生の諸君には運動や勉強サークルなどいろいろとやってみたいことがあると思う。しかし、大学の四年間というのは長いようでも意外と早く過ぎ去ってしまうようだ。その短い時間を悔いのないようやり過ごすために、自分が何をやりたいのかをしっかりと見つめて物事を実行してほしい。あつても何もかもやろうとする、消化不良を起こして結局何もできなかった、などという非常につまらないことになつてしまふので、自分の能力を把握し、目標をしばつてあせらずにやるのが良いだろう。◆一般に理系学部はとても忙しいと言われるが、本学でも自分の時間を作るのが容易ではない。講義はあらかじめ時間割が組まれているため、自由で、しかも選択科目が少なく、まして実習に関しては終了時間が不定である。◆しかし、その中から自分の貴重な時間を見つけては、積極的に活用するのでも大学生生活の醍醐味であらう。実際、かなりのハードスケジュールではあるが、そんなことにくじけず二度とない本学での大学生活を楽しく有意義に送ってほしい。◆我が新聞会にも多数のニューフェイスがやってくたが、やがて、桜の花が散つてゆくように彼らが去つてしまふのことに切に願う。(渡&沢)